

ブラジル留学中間報告書（最終）

2019年5月

国際農業開発学科4年江村藍弓

留学生活における報告書もとうとう最終回となってしまいました。前回の報告書から今までの振り返ると、まず何度も訪れている調査地カナネイアに二回行き、同様の調査を行いました。複数回訪れても毎度その土地の人々、暮らし、自然に魅了されます。これでもう行くことができなくなると考えるととても悲しいですが、このような素晴らしい場所に出会えたことが何よりの収穫でした。3月初めにはブラジル最大のイベントであるカーニバルがありました。私はハウスメイトや友達とピラシカバの **Bloco** と呼ばれるパレードのようなものに参加しました。大勢の人が参加し、音楽に合わせて歌い踊ります。私にとっては知らない音楽も多かったのですが雰囲気を楽しいため十分に楽しめました。そのあとは飯塚さんとともにサンパウロのサンバとサルバドールの **Bloco** を見に行きました。サンバといえばリオデジャネイロが有名ですが、実は始まりはサンパウロだそうです。サンパウロのサンバは **Bloco** と違って参加型ではなく観るもので、とてもきらびやかで豪華でした。打って変わってサルバドールはアフリカ系移民が9割を占めるその土地柄から、とても力強く活気に満ち溢れていました。こうしてカーニバルを通してブラジルのさまざまな場所を知れたり文化に触れることができたのでとても良かったと思います。

3月中旬からはピラシカバで空手を習い始めました。日本で習って以来8年ぶりなので体が鈍っていましたが、なんとか感覚を取り戻し、ブラジル人とともに稽古しています。稽古はほぼポルトガル語ですが、数字や掛け声などは日本語で行われます。先生は日本の文化に興味があり、段の審査のために沖縄に複数回行ってきます。世界の裏側でこのように日本のスポーツであり文化でもある空手が広まっていることに感動しましたし、これもブラジルに移民してきた日本人の努力からなるもので、この苦労のお蔭でいまこうやって練習できていることに感謝したいです。

また、農大の **OBOG** の方の農場にも何度か行かせていただき、お世話になっております。弓場農場と高木さんの農場に3日間ずつ行きました。弓場農場はサンパウロ市内の中心から600kmのところであり、バスで約9時間かけて向かいます。そこでは何家族かが暮らし、共同生活をしながら農作物を作っています。土地はすべて共有で、管理はそれぞれ分担されているのではなく、誰がどこを管理するかは決まっていません。だからと言って放置されているわけでもなく、きちんと成り立っているのが日本人ならではだと思いました。とても特殊な組織で、行く前はどのようなになっているのは想像もつきませんでした。行くとき皆さんととても温かく迎え入れてくださりたった3日間でしたが貴重な思い出や体験を得ることができました。私たちのような実習生や日本からきた旅人も多く訪れるようでした。湯船があったのですが、それが何より日本を思い出せてとても心温まりました。弓場農場の

お母さんたちが作って下さるご飯もとっても美味しかったです。高木さんは農大の卒業生のなかでも比較的若く、いろいろと新しいことを行っている方です。農場の場所はサンパウロから車で3、4時間ほどのところにあるピエダージです。育てている作物はカキがメインで、他にも様々なフルーツのドライフルーツを製造しています。近所で関わりのある農家さんも紹介していただき、多くのことを学ばせていただきました。

2月下旬に授業は始まっていますが、このように国内各地の農場を訪れたりしているので完全に授業に参加することができないため、「化学と土壌肥沃度」という授業を一つだけ受けています。留学生活が9か月を経過してもやはりポルトガル語の理解が課題であり、さらに授業で使われる専門用語、また生徒と先生の話すスピードについていくのが大変です。オプションで外部の先生が開くポルトガル語の授業を受けていますが、新聞や記事の文を読んだり、テレビのニュースを観て勉強をしているのでとても実践的で役立っています。

サンパウロに行くときはほとんどと言っていいくらいリベルダージに寄ります。そこでは日本食（めんつゆ、味噌汁、そうめんなど）を買いますが、やはり長期間留学をしていて食の大切さと日本食のおいしさに気づかされます。自分でも親子丼や牛丼などはブラジルにある食材を使って、頑張れば作れることに気づき、最近は家でブラジルの料理ではなく日本食を食べています。一番恋しいのは日本食ですがそれ以外はあまりさみしさを感じることはありません。それも、ブラジル人が温かく優しいからでしょう。しかし、最近はサンパウロ市の方で邦人被害が多いとの情報が在ブラジル日本国総領事館からメールで送られてきます。お金を持っていると思われ、狙われる可能性が高くなっているとのことですが、外出時には気を引き締めて行動したいです。だんだんと慣れてきて行動範囲も広がっているので、自分の身は自分で守れるようにと心がけています。

家族や友達とはメッセージや電話をちょくちょくしますが、特に家族とはあまり話さないで両親の気持ちがあまり伝わりませんが、あまりに連絡をしないと、今なにをしているかの確認メールが来ます。その時は最近やったことや訪れた場所の写真を送ったりして情報共有をするようにしています。何かあった時のためでもあります。自分の現状を伝えるのは大事だと思っています。金銭面でも精神面でもサポートしてもらっているので家族には感謝しなければなりません。

帰国の数週間前には授業も終わるので、ピラシカバから出て一度訪れた場所や一人で南部の方を旅してみたいなあと考えています。やり残したことがないように精いっぱい楽しみたいと思います。今回の留学が成立し、もう少しで終わろうとしているのも、農大の国際協力センターの皆さま、特に世界展開力担当者様、ESALQの職員の方々、農大会館の皆さまのお手伝いがあったからこそのものでした。本当にありがとうございました。



図1. カナネイアにて調査を行う様子



図2. 空手の稽古